

米軍嘉手納基地への軍用外来機の飛来に対する抗議決議

沖縄防衛局によると、本年、10月28日から11月18日にかけて、米海軍用の垂直離着陸輸送機CMV-22オスプレイ及び米軍横田基地所属のCV-22オスプレイが複数回、嘉手納基地に飛来した。

また、新聞報道によると、11月5日、米軍岩国基地所属のFA-18戦闘機16機が飛来した他、14日には3機が追加され、カナダ空軍の哨戒機CP140オーロラ1機も合わせて飛来。

さらに、17日から19日にかけても外来機飛来が相次ぎ19日午後5時時点で、FA-18戦闘機など19機が滞在。コロナ禍における様々な懸念がある中で、滞在期間・兵員等、具体的な詳細は明らかにされておらず看過できない。

2015年10月29日に行われた日米安全保障協議委員会（2プラス2）において、訓練の一部を県外・国外で行うとの合意がされているにも関わらず、外来機の飛来が後を絶たず負担軽減と逆行している状態は、到底容認できるものではなく、強い憤りを禁じえない。

近年の嘉手納基地周辺における環境基準値を超過した騒音は幾度となく発生・測定されており常駐機の運用に加え、外来機の飛来による騒音被害が増加している事は明らかである。そればかりか、嘉手納基地の騒音については、騒音規制措置（騒音防止協定）において午後10時から午前6時までの飛行制限が明記されているものの、基地司令官が出した滑走路運用指示書では、夏場には午前0時まで飛行を認める事が明記され、合意破りを前提とした運用が容認されている。

地域住民が日常的に航空機騒音被害に悩まされ、町民生活に甚大な悪影響を及ぼしている事を日米両政府は認識し、ルールの遵守と本質的な負担軽減策を図るべきである。

よって、本町議会は、町民の生命、財産、安全を守る立場から、米軍及び関係当局に対し厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要求する。

記

- 1 垂直離着陸輸送機オスプレイの定期的訓練の禁止・日米両政府の配備計画を撤回すること。
- 2 軍用外来機飛来・暫定配備を中止し即時撤去すること。
- 3 嘉手納基地の負担軽減を速やかに実施し、機能移転・訓練移転を図ること。
- 4 騒音防止協定を遵守し、嘉手納基地の騒音軽減を確実に実施すること。
- 5 日米地位協定の抜本的改定を早急に行うこと。
- 6 全ての在沖米軍基地を整理縮小し、段階的に撤去すること。

以上、決議する。

令和3年12月16日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

米国国防長官	米国国務長官	駐日米国大使	米インド太平洋軍司令官
在日米軍司令官	嘉手納基地第18航空団司令官		米軍横田基地司令官
米軍岩国基地司令官	在沖米四軍沖縄地域調整官		在沖米国総領事